

「派遣教員との対話の要旨」

(文責 校長 登喜 龍一郎)

1 今後のニューヨーク日本人学校経営基本方針に関わる意見

○どこの学校も“前年度の教育活動より良いものを作り上げる”ことが学校経営の大原則であると思います。そのための技法・手腕、いわゆるソフト面での充実を図るのが我々派遣教員の使命であり、施設・設備、いわゆるハード面の充実を図るのが審議会の使命であると思います。

○契約前も契約後も保護者、教員を交えて交渉の細部を詰めてほしい。今後理事に PTA の代表を入れるよう検討いただきたい。

○今後、移転する際に誰が移転先を見つけ、いつまでに、どのような形で動き出すのか、今回の失敗を繰り返さないためにも、事前に明確にしておいた方がよいと思います。

○以前ニュージャージー校で「統合が進んだ場合何人がグリニッチに行きますか？」というアンケートを取りましたが、結果は数名と言うことで統合を延期にしたという経緯があります。このまま、売却が進んだ場合、どのぐらいの生徒が残るのかというアンケートをこちらでも取る責務があります。

○保護者の中からも管理委員や理事を出す。少なくとも、保護者代表と学校長は正理事として意見を言う場を設ける。また設置者、運営責任者としての各理事は、各社の保護者から選出し、学校運営に精通した人が現状を把握して経営するようにする。以上よろしく願いいたします。

○ニューヨーク日本人学校に子どもを通わせてくる保護者の多くは、教育審議会が考えている「日本語教育を安定して提供する」のみの学校として選択してきてはいない。日本の公立学校程度、あるいはそれ以上の教育成果を期待して本校を選択している現状を理解してほしい。進学実績においても素晴らしい結果を毎年出している有名私立校以上の学校であるという認識で考えてもらいたい。今回の売却リースバック交渉の結果如何では、そのような優れた学習環境・教育環境が「わがままや贅沢は許さない」という現在の教育審議会の方針で損なわれる可能性が大である。教育審議会としてどのような将来の学校像（学校経営の基本方針）を考えているのか、明示しなければならぬ重要な時期であると考えている。しかも、その学校経営の基本方針は、リースバック中の期間だけでなく、この敷地から移転したあとの学校の姿をも見越した姿として明示していただきたい。

○ニュージャージー校との統合を目指しているのであれば、まず一日も早く少人数に相応しい移転先を探す事が大事だと思います。

○本校の生徒に限らず、今後子どもたちへ教育活動を行って行く上で、大切にしたい指導の眼目の一つに、「対話重視」があります。これは、人間を大切にする子どもたちの心を育てていくために大切な視点です。「自他ともの幸福」を追求していける子供達をどのように育てていくのか、今後の社会を考えると、私は、教育の目的は、教科学習、道徳、特別活動、平和学習などすべてそこに帰結すると考えています。知恵ある対話、保身をぬぎ、「子どもたちの教育を考えた対話」にまで練り上げる努力。これが必要だと思います。その範を示すのは、周囲の大人の使命であると思います。今回の売却問題で、教員は賛否を論ずる立場にありません。保護者、審議会双方がぎりぎりの努力をしたことを子どもたちの目に見える形で表現していくことが大切ではないかと考えます。子どもに幅広い人格の崇高さを要求するなら大人側もその範になるものを示す努力が必要です。

○「共用化されても、どういう状況にあっても教員は確実に仕事をする」という意見がありますが、そんなことは当たり前です。しかし、大切なのは今日の前の子どものこれからがどうなるのかを不安に思い、その子どもにはあれだけ「売却・リースバック」に反対する保護者がいて、やはり不安に思っているとき、それに寄り添って考えなければならないのが教職員のつとめだと思います。

2 安心・安全な学校の維持に関わる意見

○一部の保護者の方や教員も心配していましたが、「子供同士のトラブルが起こったとき、審議会などが責任を取ってくれるのか」は今後の安全管理上重要な問題と考えます。問題が発生してから考えるというのではあまりにも無責任すぎます。学校事故報告等で多く見られる典型的な事例等については、どのような責任配分になるか示しておく責務があると考えます。また複数同士の子供のトラブルが起こったときは、双方共に多大な賠償責任も発生する危惧があります。

○保護者が審議会に対して不信感や疑問を持っていると、生徒も同じように思ってしまう。今の状態では売却後、相手校に対して感情的なしこりを残すこととなり、教育活動に支障をきたすことは明らかです。保護者や学校が心配している点について、審議会より明確なお答えを出していただき、保護者に納得してもらうように、活動していただきたい。

○中等部生徒は思春期と言うことで、精神的にも不安定な時期である。8, 9年生徒は教室に手洗い場がない。トイレは外に一回出なければいけない。(雨や雪のときは本当にかわいそう)教室はぎゅうぎゅうの状態です。昨年度までの他に誇れる環境から一転しています。また、空き教室が一切なく、委員会活動や選択授業、合唱練習などで支障を来しています。これ以上学習環境が悪化すると、健全な成長に障害が出ると感じています。トイレの校舎内増設。水のみ場の設置。これは、予算の問題云々ではなく、保健衛生面からも必要最低限の改善だと思います。

○このような状況で、相手がどこであれ共用開始となれば、児童生徒は相手に対して、良い感情は、もっていないと思う。そんな中で、共用を開始すれば、相手と何らかの接触があったときからかたり、笑ったり、怒ったりすることが出てくるのは十分予想される。突発的には争いになることも考えられるが、このような敷地、建物では管理もままならないと考える。また、そのようなことが起こったときに、言語、文化の違いから、私たちだけでどのような対応をとれるのかと考えると非常に不安である。複数の常駐の専門的なスタッフが確保できるのか明らかにしていただきたい。

○私たちは子どもたちの教育をつかさどる立場であり、子どもたちが安心して学習できる環境を作っていくのが職務だと考えている。昨年度と比較して明らかに環境が悪くなり、更にこれから様々な困難な状況が待ち受けている。そんな中では、子どもたちの心の問題が一番心配である。環境は人を作ると言われる。世界一だと言われる今までの GJS の伝統はこの環境があったからこそだと思う。子どもたちには今まで同様、「とても良い思い出ができた」と言って卒業、転出して行ってほしいと願っている。経済的な論理からだけでなく、子どもたちの心に傷を残さぬよう、しっかりと子どもたちの姿を見て、子どもたちの将来を考えて、結論を出してもらいたいと考えている。

○両校とも、意思疎通を図るために(トラブル時など)バイリンガルの者をおくという案があるが、最低

数名ずつは必要である。同時にいくつかの問題を処理しなければならないケースがあるから。しかも、単なるバイリンガルでなく教育者・交渉人としてのプロでなければならない。

3 相手校との敷地等の共用に関わる意見

○ 審議会最終提出案の技術室の移転について、動線の部分として技術室の移転は理解できるが、移転する場合の問題として、騒音の問題、スペースの問題、機械の移転費用があげられる。騒音問題は丸鋸盤や機械の騒音、金槌などの騒音がかなり出るので、普通教室での授業の妨げになるので、普通教室からは距離を離してほしい。スペースは、作業を主な内容としているので、ある一定の広さが無いと危険である。機械の移転費用は、丸鋸盤、ボール盤などが床に据え付けられているので、移転の際にかなり大がかりな工事を伴う、また、240V ぐらいの電気を使うので、特別な電気工事も必要になってくる。そのため、移転につき現実問題として移転先の教室が見つからない。従って、この問題に関しては、早急に動線の再検討か移転教室の検討をお願いしたい。

○ ゾーニングの件で様々な制約があるにもかかわらず、その細部が明確に見えてきません。実際に「バスの乗り入れは」どうなるのか、「車の乗り入れは」など、これまでの経緯や学校現場を知っている人間が、契約の詰めの段階で会議に入るべきであると思います。

○ 共用部分があると、その運用に関しては大変問題が出てきて、夏季休業直後のように子供たちの手まで煩わせるようなことになってしまいます。(2学期の授業に合わせて、すぐに片づけをしないといけない状況でしたので、教師だけで片付けることは無理でした)

○ # 1 0 ビルディングの共用には強い懸念を覚える。音楽室、理科室、技術室、ART 室という特別教室であるため、教師が不在の時間が発生する箇所である。(保護者や来客への対応のため # 1 0 の常駐は困難) 更に、以前の合意書では、# 2 フィールドで近隣から苦情が来た場合、# 1 フィールドを使用させるという条項があったが、子供同士がぶつかって怪我をした場合、言語、文化の差違から問題が大きくなる。また、# 1 フィールドは休み時間、体育を初、中等部の現在の割り当てが限界である。中等部生徒は、昨年度と比べて運動不足を訴える生徒が多くなった。もはや、相手校に使わせる余裕はないと思う。

○ 世界でも高い物価のかかるニューヨークという土地で、そこに見合う高い日本人学校の施設設備等の維持管理費も、当然応分の負担として発生するのが当然ではないかと思う。

○ 「敷地・校舎の共用」は、国際化へ向けての非常に大きな取り組みの一つだとは思いますが、相手との信頼関係があった上で交流から国際化へと発展していくのではないのでしょうか。ここまで崩れた関係を修復するのは非常に時間のかかることです。学校だけでなく家庭での教育の中でも同じように相手との関係を修復し、信頼関係を築いていくということは非常に困難だと思います。相手が日本人でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

○ 現時点でも空き教室がないため、算数ルームや生活科ルーム、国際理解ルームなど、日本の学校にあたりまえにあるような教室が整備されていません。共用化し、教室数が年々減っていくだろうということを考慮すれば、そういった教室の整備などありえません。現時点でも「日本の学校並」とは、言えない状況です。